Kinki University becomes first OCLC user in Japan.

中央図書館整理課洋書係

…1987年10月14日、午前10時20分、中央図書館整理課に於いて、米国オハイオ州コロンバスにあるOCLCのホスト・コンピュータとオンライン接続がおこなわれた。これにより、OCLCの持つ1,700万件のデータを自由に検索し、そこに登録されている2億5,000万冊にも及ぶメンバー館の蔵書を、相互貸借出来る道が開かれたわけである。

ここで、御存知の方も多数おられると思うが、OCLCについて簡単な説明をしておきたい。発足は、1967年、オハイオ州内の大学54校の図書館をメンバーとした、共同機械化のネットワークの中心として、Ohio College Library Center（略称、OCLC）が、創設された。これは、オハイオ州内の大学学長関係者達が、何らかの機械化、コンピュータ化によって、図書館活動全体を合理化出来ないか、と考えたことが発端となっている。すなわち、図書館活動のなかで負担の重い資料の収集や目録作成等の部分を、資源の共有や協力によって軽減するということであった。そこに流れる基本思想は、単純明快なものであるが日本の図書館界には革命的と思える、共有協力によるコストの削減である。そして、実際に、1970年にLC/MARCを購入して、メンバー館の目録カードを印刷するサービスを開始し、翌1971年には、共同で目録をつくる為のオンラインシステムの開発に成功した。このシステムの基本は、オンライン総合目録システムである。つまり、メンバー館が端末により自館に受け入れられた資料の目録を作成する場合、まず、その資料に関する目録が、既に他の図書館（含む、U.S.マーク，U.K.マーク）によって作成されているかどうかを調べる。もしも、作成されていれば、それを複写して、自分の図書館の目録として使えるように変更して登録する（コピー目録）。なければ、端末から目録を作成し、システムに登録する（オリジナル目録）。このコピー目録による所蔵館の登録と、新たに目録を登録するオリジナル目録によって、このシステムは成り立っている。メンバー館にとっては、コピー目録の比率が高くなればなるほど、目録作業の効率が良くなるわけであるが、すべてのメンバー館がコピー目録のみを行っていたのでは、システムの成長はあり得ない。この共同目録作業（Shared Cataloging）の基本的な考え方は、ギブ・アンド・テークであり、システム自体をメンバー館が支えているという自覚が必要である。幸いなことに、1970年代の米国の図書館界は、OCLCの持つ〝コスト削減〟の思想と、メンバー館としての〝ギブ・アンド・テーク〟の考え方はすんなりと受け入れられた。そして、1972年に、オハイオ州内に限っていたメンバー館を州外に拡大すると、その数はみるみる増え、それに伴ってデータ量も増加の一途をたどったのである。この成長に併せて、組織の正式名称をOCCL, Inc.（1977年），OCLC Online Computer Library Center, Inc.（1981年）と変更し、現在に至っている。

〈OCLCの組織〉

OCLCは、発足当初から非営利会社として運営された。現在は、非営利の会員制社団法人であり、その収入に対しては免税措置がとられている。株式を売ったり、他人に分譲したり、利益を配当したりしない。収入のすべては、サービスを拡張したり設備投資、研究・開発あるいは債務の返済にあてられる。1987年現在、ほぼ800人の職員がおり、役員室と計画研究室、そして7つの部にそれぞれ配属されている。[1]OCLCの組織運営構造は、一般会員とユーザー・カウンシル、それと理事会によっ

て成り立っている。そして、その運営方針は、「図書館のコストの増加をおさえ、図書館利用者が図書館のもつ資料をより効果的に利用できるようにすること」というOCLCの目的に沿って、終始一貫されている。

〈OCLCのシステム規模〉

次に、1988年2月現在の、OCLCのデータベース量を紹介しておく。[2)]

書誌レコード件数…1,750万件
増加書誌レコード件数…230万件／年
所蔵レコード件数…約3億件
メンバー館…7,900館
オンライン相互貸借件数…320万件／年

ちなみに、日本の公共図書館と大学図書館（含む、分館・分室）の総数は2,655館、大学図書館の所蔵する全洋書冊数は、5,385万2千冊である。[3)] この数字を比較しただけでも、OCLCの巨大さがうかがわれる。まさに、世界最大のデータベースである。メンバー館は、世界30ヶ国に及び、ボストン大学、ハーバード大学など我々の知っている大学はほとんど、そのメンバーとなっている。日本に於いても、昨年の当館を第1号として、愛知大学、立命館大学、慶応義塾大学、早稲田大学など、1988年2月までに9校がメンバー館に加わった。将来は、OCLCによる〝ジャパン・ネットワーク〟が出来るかもしれない。

1988年6月末日現在、当館のOCLCへの登録は、4,782件である。〝4,782／3億〟という数字に対する評価は、又別の機会に譲るとして、今回はOCLCの紹介と報告ということで、終りとしたい。

1）OCLCオンライン図書館システムのご案内　紀伊國屋書店
2）OCLC now. May, 1988　紀伊國屋書店
3）日本の図書館　1987　日本図書館協会　1987年

〈参考文献〉

池田　秀人　アメリカ合衆国における図書館自動化システム　紀伊國屋書店　1987年
黒沢　正彦他編　マークをうまく使うには　三洋出版　1985年

（祝原　記）

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.